

足下の運用状況と 運用チームからのメッセージ

モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン

(為替ヘッジあり) / (為替ヘッジなし)

(為替ヘッジあり) 予想分配金提示型 / (為替ヘッジなし) 予想分配金提示型
追加型投信 / 内外 / 株式

・本資料は、「モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン」をご理解いただくために概略を記載したものです。このため、ファンドの商品性、リスク、お申込みメモなどについては最新の投資信託説明書（交付目論見書）をご確認いただく必要があります。
・各ファンド名を「為替ヘッジあり」、「為替ヘッジなし」、「(為替ヘッジあり) 予想分配金提示型」、「(為替ヘッジなし) 予想分配金提示型」、これらを総称して「当ファンド」または「モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン」、各々を「各ファンド」ということがあります。

三菱UFJアセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

プレミアム企業を選んで 長く持つ

当ファンドがめざしているのは、
プレミアム企業 に集中投資を行うことにより、
短期的な相場の変動や景気サイクルに左右
されない持続的な投資成果を獲得することです。

市場では、足下の相場上昇をけん引してきた
ハイテク株、なかでもAI（人工知能）
関連銘柄の過熱感を警戒する声上がり、
先行きに対する不透明感も意識され始めて
います。

本資料では、当ファンドが投資する
マザーファンドと同様の運用プロセスを用いる
グローバル・フランチャイズ運用戦略の運用
チームのコメントをQ&A形式でご紹介いたし
ます。

※マザーファンドは当ファンドの実際の運用を行うモルガン・スタンレー グローバル・
プレミアム株式オープン マザーファンドです。
※本資料はモルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントの資料・コメントを
基に作成しています。
※販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合があります。

巻末の【本資料に関するご注意事項】の内容を必ずご覧ください。

目次

- Q1** 2025年初来の運用状況と足下の投資環境について教えてください。 (P.3-4)
- Q2** 2000年代初頭の（いわゆる）ITバブルと比べて現在の局面をどのように分析していますか？ (P.5-6)
- Q3** 2025年7-9月期のパフォーマンスがマイナスとなった背景について教えてください。また、セクターごとのパフォーマンスへの影響や組入銘柄の寄与度を教えてください。 (P.7-8)
- Q4** プレミアム企業にはどのような特徴がありますか。また、過去と比べてそれらに変化はあるのでしょうか。 (P.9-10)
- Q5** 運用チームの組織体制について教えてください。 (P.11)
- Q6** 運用チームから日本の投資家の皆さまに伝えたいメッセージ (P.11)

Q1 2025年初来の運用状況と足下の投資環境について教えてください。

前後半で異なる状況となった2025年のパフォーマンス

2025年11月までの当ファンドのパフォーマンスを振り返ると、1月～6月と7月以降で異なる状況であったと考えています。

前半の1月～6月は、グローバル・フランチャイズ運用戦略のポートフォリオがめざす特性を発揮することができました。特に、4月に米トランプ政権の関税引き上げへの懸念から市場が下落する局面では、先進国株式指数対比で底堅さを発揮しました。

一方で、後半の7月～11月は厳しい期間となりました。背景として、テクノロジー関連株式が大きく上昇した一方で、クオリティ企業にとっては過去30年間で最も厳しい環境であったこと（Q2で詳述）、また、高度化する生成AIによる事業・サービス代替への懸念から、関連する銘柄が業種やビジネスモデルの違いを十分に考慮することなく無差別的に売られたことなどが挙げられます。

■先進国株式とマザーファンドの年初来パフォーマンス



(出所) Bloombergのデータを基に三菱UFJアセットマネジメント作成
(期間) 2024年12月30日～2025年11月28日

※マザーファンドはファンドの実際の運用を行うモルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン マザーファンドです。マザーファンドでは、運用管理費用（信託報酬）はかかりません。当ファンドでは信託報酬がかかるため上記マザーファンドのパフォーマンスとは異なります。※先進国株式は米ドルベースの指数（配当込み）を使用しており、三菱UFJアセットマネジメントが円換算しています。同指数は、マザーファンドの基準価額の算出基準日に対応する現地時間に基づき記載しております。指数は、市況推移の参考として掲載しており、当ファンドおよびマザーファンドのベンチマークではなく、当ファンドの運用実績を示すものではありません。※指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。

※上記は過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、為替・税金・手数料等を考慮していません。

巻末の【本資料に関するご注意事項等】の内容を必ずご覧ください。

Q1 2025年初来の運用状況と足下の投資環境について 教えてください。(続き)

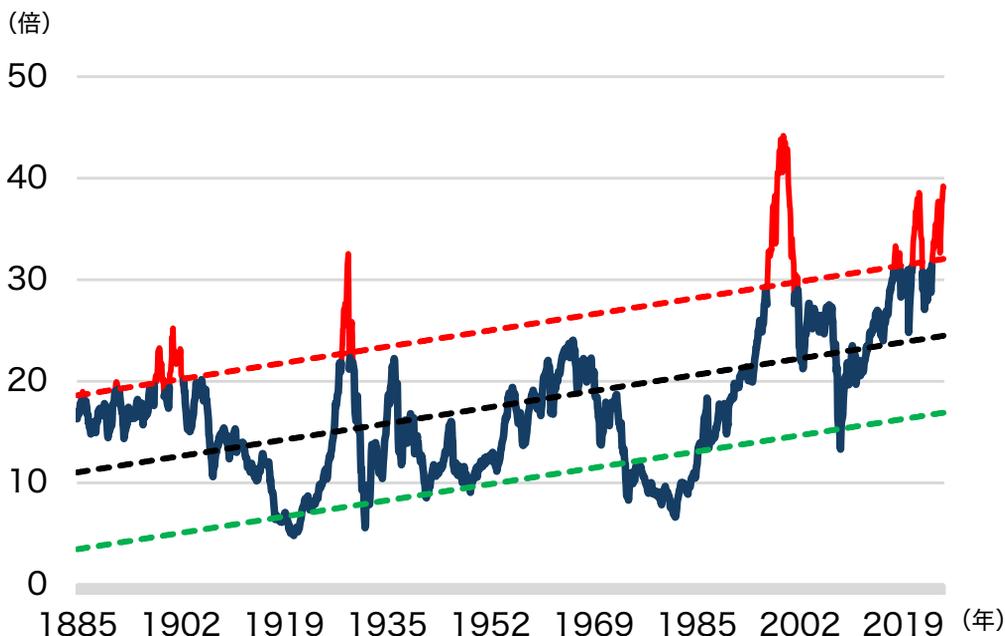
S&P500指数構成銘柄のバリュエーションは過去稀にみる高い水準に

下のグラフは、過去140年間におけるS&P500指数構成銘柄の景気循環調整後株価収益率を示しています。インフレ調整済みの過去10年間の平均利益に対する株価の倍率を表す指標で、数値が高いほど企業の利益に対する株価の割高感が強いことを示唆します。

過去140年間で、現在のような高いバリュエーション水準は数回しかなく、その多くは新技術への期待が主な要因の一つとなった局面です。

このグラフは、市場の調整タイミングを示すものではありませんが、過去にトレンドが変化した局面では大きな変動となったことがわかります。

■ご参考：S&P500指数の景気循環調整後株価収益率*の推移



(出所) モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントの資料を基に三菱UFJアセットマネジメント作成
(期間) 1885年12月～2025年11月

*景気循環調整後株価収益率 (CAPE) とは、インフレ調整済みの過去10年の平均利益に対する株価の倍率を示す指標です。上記には、トレンドライン (黒線) と±1標準偏差 (赤線、緑線) を示しています。また、S&P500指数算出開始以前の米国株式市場のデータに基づく推定値を用いて算出された期間を含みます。

※上記は過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、為替・税金・手数料等を考慮していません。

巻末の【本資料に関するご注意事項等】の内容を必ずご覧ください。

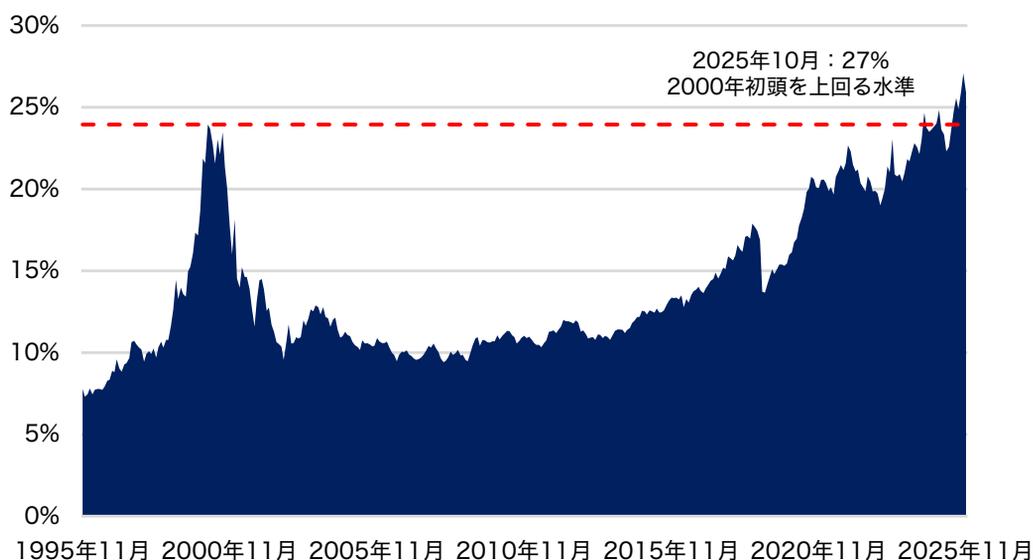
Q2 2000年代初頭の（いわゆる）ITバブルと比べて現在の局面をどのように分析していますか？

2000年代初頭のITバブルと足下の投資環境の相違点

情報技術セクターの急速な株価上昇を背景に、2000年前後のITバブルを想起する方も少なくないかもしれません。

現在のハイテク企業は、設備投資額を自社のフリー・キャッシュフローで賄えている場合が多く、例えば「マグニフィセント7」は足下でも安定して大きな利益を上げています。この点で2000年代初頭のITバブルとは違いがあると考えていますが、新技術によって恩恵を受ける企業の成長鈍化や、新技術に対して市場が失望する可能性には引き続き着目しています。また、マクロ要因が投資判断にどの程度影響するかという質問もいただきますが、運用チームの投資判断はボトムアップでの調査に基づくため、マクロ環境によって直接的に判断を変えるようなことはありません。

■ご参考：先進国株式の時価総額に占める情報技術セクターの割合



(出所) Bloombergのデータを基に三菱UFJアセットマネジメント作成
(期間) 1995年11月末～2025年11月末

※上記は過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、為替・税金・手数料等を考慮していません。

巻末の【本資料に関するご注意事項等】の内容を必ずご覧ください。

Q2 2000年代初頭の（いわゆる）ITバブルと比べて現在の局面をどのように分析していますか？（続き）

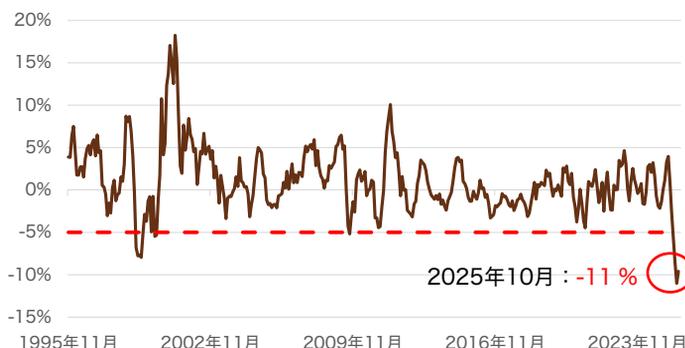
過去30年で最低水準となったS&P500クオリティ指数の相対パフォーマンス

右のグラフは、S&P500クオリティ指数の対S&P500指数超過リターンを示しています。

2025年10月のS&P500クオリティ指数の6ヵ月累積リターンはS&P500指数を11%下回り、過去30年間に於ける最低水準となっています。

背景には、リスクオン環境下でファンダメンタルズの安定性に乏しい銘柄が選好され、持続的成長が期待される「クオリティ企業」のパフォーマンスが劣後したことが挙げられます。一般的に、クオリティ企業は財務健全性と高利益率を備えているため、大きく劣後した後は力強く回復する傾向がみられると考えています。

■ご参考：S&P500クオリティ指数の対S&P500指数超過リターン（6ヵ月累積リターン）



（出所）Bloombergのデータを基に三菱UFJアセットマネジメント作成
（期間）1995年11月末～2025年11月末

現在はクオリティ投資の魅力的なエントリーポイントという見方も

下表は、過去30年間に於いてS&P500クオリティ指数の6ヵ月累積リターンがS&P500指数を5%以上下回った月（超過リターンが-5%未満、全8回*）に投資を開始した場合の期間別リターンを示しており、6ヵ月後には3回、2年後にはすべてでS&P500クオリティ指数の超過リターンがプラスとなりました。この点において、現在はクオリティ投資の魅力的なエントリーポイントとして捉えることもできると考えています。

| 投資開始月 | 投資開始月から6ヵ月後の累積リターン | | | 投資開始月から2年後の累積リターン | | |
|-------------|--------------------|----------------|-------------------------|-------------------|----------------|-------------------------|
| | S&P500(A) | S&P500クオリティ(B) | S&P500クオリティの超過リターン(B-A) | S&P500(C) | S&P500クオリティ(D) | S&P500クオリティの超過リターン(D-C) |
| 1 1999/3/31 | 0% | -4% | -4% | -10% | 11% | 21% |
| 2 1999/4/30 | 2% | 1% | -1% | -6% | 15% | 21% |
| 3 1999/5/31 | 7% | 6% | -1% | -4% | 19% | 22% |
| 4 1999/6/30 | 7% | 2% | -5% | -11% | 12% | 23% |
| 5 1999/7/30 | 5% | 4% | -1% | -9% | 16% | 25% |
| 6 2000/2/29 | 11% | 16% | 5% | -19% | 15% | 34% |
| 7 2000/3/31 | -4% | 8% | 12% | -23% | 11% | 34% |
| 8 2009/9/30 | 11% | 13% | 2% | 7% | 18% | 11% |

（出所）Bloombergのデータを基に三菱UFJアセットマネジメント作成 （期間）1995年11月末～2025年11月末

*1995年11月～2025年11月において、S&P500クオリティ指数の6ヵ月累積リターンがS&P500指数を5%以上下回った1999年3月～7月、2000年2月～3月、2009年9月、2025年8月～11月のうち、作成時点で6ヵ月後および2年後の累積リターンが取得できない2025年8月～11月を除いた回数

※指数は米ドルベースの指数を使用しています。※指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。

※S&P500クオリティ指数とグローバル・フランチャイズ運用戦略の「クオリティ企業」の詳細な定義は異なります。

※上記は過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、為替・税金・手数料等を考慮しておりません。

Q3

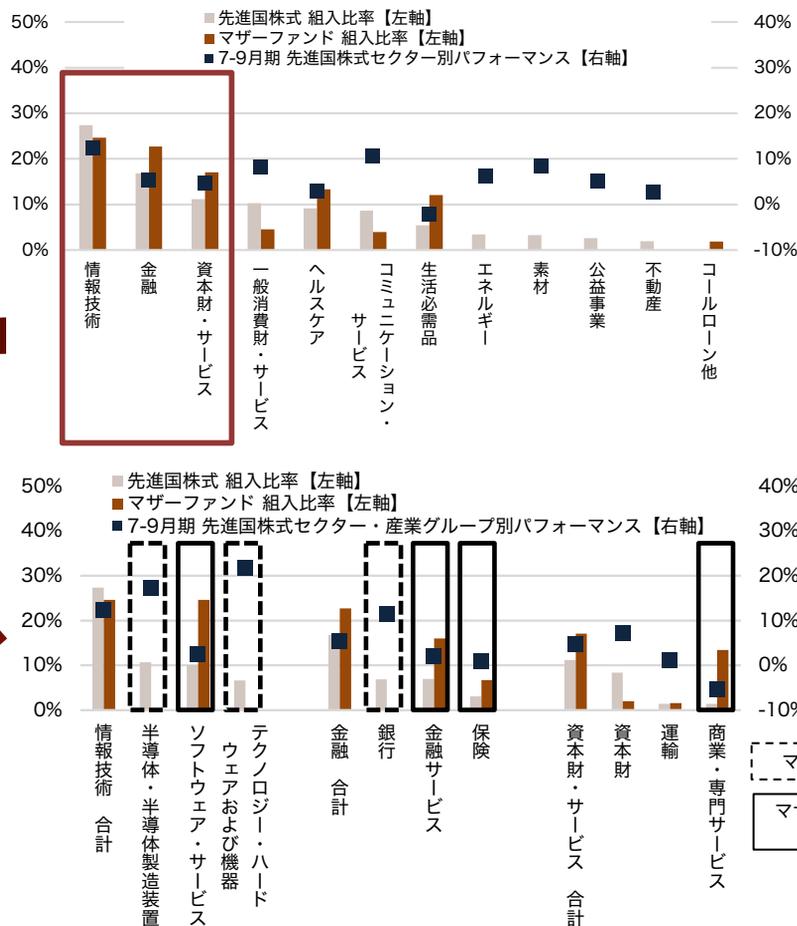
2025年7-9月期のパフォーマンスがマイナスとなった背景について教えてください。また、セクターごとのパフォーマンスへの影響や組入銘柄の寄与度を教えてください。

7-9月期の先進国株式市場は情報技術セクターがけん引 当ファンドでは半導体・半導体製造装置への直接的な投資は行わず

2025年7-9月期の先進国株式のセクター別パフォーマンスは、情報技術が最も高い12%の上昇となりました。先進国株式、マザーファンドの組入比率上位3セクターについて、産業グループ別に比較したのが下段のグラフです。情報技術セクターの内訳をみると、ハードウェアや半導体が市場をけん引したことが確認できます。

当ファンドでは、ポートフォリオがめざす安定的な成長が期待されるかという点を勘案し、2025年9月末時点で、景気感受性が高い半導体・半導体製造装置あるいはテクノロジー・ハードウェアおよび機器への直接的な投資は行っていません。また、金融セクターにおいて、銀行への投資は行ってない一方、金融サービスの組入比率が比較的高くなりました。

■先進国株式・マザーファンドのセクター・産業グループ配分（2025年9月末時点）と2025年7-9月期の先進国株式のパフォーマンス



(期間) 2025年6月30日～2025年9月30日

(出所) モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントの資料、Bloomberg、LSEGのデータを基に三菱UFJアセットマネジメント作成

※先進国株式セクター別パフォーマンスは、米ドルベースの各業種別指数（税引後配当込み）の値を使用しています。※原則として、組入比率は2025年9月末時点のマザーファンドの純資産総額に対する割合です。※指数は、市況の参考として掲載しており、当ファンドおよびマザーファンドのベンチマークではなく、当ファンドの運用実績を示すものではありません。※指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。※コールローン他は未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。

※上記は過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、為替・税金・手数料等を考慮していません。

巻末の【本資料に関するご注意事項等】の内容を必ずご覧ください。

Q3 2025年7-9月期のパフォーマンスがマイナスとなった背景について教えてください。また、セクターごとのパフォーマンスへの影響や組入銘柄の寄与度を教えてください。（続き）

セクター内における銘柄選定がパフォーマンスのマイナス要因に生成AIの急速な普及に伴う懸念などを背景に売られた銘柄も

2025年7-9月期の先進国株式と比較したマザーファンドのパフォーマンスは、情報技術、金融、資本財・サービスのセクター内における銘柄選択がマイナス要因となりました。また、相対的にパフォーマンスが悪かった生活必需品の組み入れが先進国株式と比べて多かったことなどもマイナス要因となりました。一方、相対的に低調な推移となった不動産の非保有などがプラス要因となりました。

銘柄別の寄与度では、生成AIの急速な普及が既存事業モデルに影響を及ぼすことへの懸念などから、無差別的な売りに直面したソフトウェア・サービスや金融サービスの銘柄などがマイナスに影響しました。

■2025年7-9月期のマザーファンドにおけるパフォーマンス寄与度上位・下位5銘柄

・上位5銘柄

| | 銘柄名 | 国・地域 | セクター | 産業グループ | 寄与度 |
|---|---------------------|------|----------------|------------------------|------|
| 1 | アルファベット | アメリカ | コミュニケーション・サービス | メディア・娯楽 | 1.2% |
| 2 | マイクロソフト | アメリカ | 情報技術 | ソフトウェア・サービス | 0.7% |
| 3 | サーモフィッシャーサイエンティフィック | アメリカ | ヘルスケア | 医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス | 0.4% |
| 4 | オートゾーン | アメリカ | 一般消費財・サービス | 一般消費財・サービス流通・小売り | 0.3% |
| 5 | ロリアル | フランス | 生活必需品 | 家庭用品・パーソナル用品 | 0.3% |

・下位5銘柄

| | 銘柄名 | 国・地域 | セクター | 産業グループ | 寄与度 |
|---|--------------------|--------|-------|------------------------|-------|
| 1 | SAP | ドイツ | 情報技術 | ソフトウェア・サービス | -0.8% |
| 2 | アクセンチュア | アイルランド | 情報技術 | ソフトウェア・サービス | -0.5% |
| 3 | ファクトセット・リサーチ・システムズ | アメリカ | 金融 | 金融サービス | -0.4% |
| 4 | ヘイリオン | アメリカ | ヘルスケア | 医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス | -0.4% |
| 5 | ローパー・テクノロジーズ | アメリカ | 情報技術 | ソフトウェア・サービス | -0.3% |

(期間) 2025年6月30日～2025年9月30日

(出所) モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントの資料、Bloombergのデータを基に三菱UFJアセットマネジメント作成

※上記は当ファンドの理解を深めていただくため、パフォーマンス寄与度上位および下位銘柄を紹介したものです。したがって、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記銘柄を組み入れることを保証するものではありません。※寄与度は上記期間中のマザーファンドの基準価額の変動において、各銘柄の変動がどれだけ影響しているかを示したものです。各銘柄の日次の保有比率および株価を基に計算した概算値であり、実際の取引価格やファンドが負担するコスト（売買手数料や信託報酬など）などは考慮されていません。また、外貨建ての銘柄については、概算値（円換算済み）です。そのため、実際の基準価額の変動に対する寄与度を正確に説明するものではなく、傾向を知るための参考値としてご覧ください。なお、マザーファンドにおける各銘柄の保有期間は異なります。※国・地域はモルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッドが定義した区分に基づいています（2025年9月末時点）。※セクター、産業グループは、GICS（世界産業分類基準）で分類しています。

※上記は過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、為替・税金・手数料等を考慮していません。

Q4 プレミアム企業にはどのような特徴がありますか。また、過去と比べてそれらに変化はあるのでしょうか。

持続的なフリー・キャッシュフローの増大が期待されるプレミアム企業の魅力

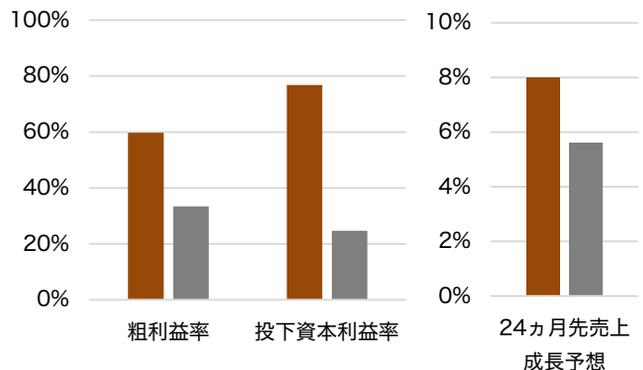
プレミアム企業の特徴は、高いブランド力、有力な特許、強固な販売網など、競争優位の無形資産を裏付けに、持続的なフリー・キャッシュフローの増大が期待されることです。プレミアム企業の最大の魅力は、人々の生活に不可欠でリピート購入される家庭用品やサブスクリプション方式で継続利用されるソフトウェアを提供していることなどから、価格決定力を有し、売上の継続性が高いことです。

そのような特徴を有するプレミアム企業は、持続的な株価上昇に加え、株式市場の下落局面において魅力的な下値抵抗力を期待できると考えています。

クオリティ特性を判断する指標の例として、「いかに効率よく収益を上げているか」を表す投下資本利益率や粗利益率に着目すると、2025年11月末時点でグローバル・フランチャイズ代表ファンドのポートフォリオは先進国株式よりも高い数値となっていることがわかります。

また、24ヵ月先の売上成長予想についてもグローバル・フランチャイズ代表ファンドが先進国株式を上回りました。

■先進国株式とグローバル・フランチャイズ代表ファンドのクオリティ指標*



■グローバル・フランチャイズ代表ファンド

■先進国株式

(時点) 2025年11月末

(出所) モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントのデータを基に三菱UFJアセットマネジメント作成

ポートフォリオの割安さを示唆する株価予想フリー・キャッシュフロー倍率

高い売上成長率が期待される一方で、先進国株式対比でのグローバル・フランチャイズ代表ファンドの株価予想フリー・キャッシュフロー倍率は、2025年11月末時点で過去10年間で最低水準となっています。これは、期待される売上成長やキャッシュフローの創出力に対して、株価が割安な水準であったことを示唆しています。

(期間) 2015年11月末～2025年11月末

(出所) モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントのデータを基に三菱UFJアセットマネジメント作成

■先進国株式とグローバル・フランチャイズ代表ファンドの株価予想フリー・キャッシュフロー倍率の比較



2015年11月末以降の最低水準

*投下資本利益率、売上粗利益率、設備投資額/売上高は、金融セクターを除く直近値。計算方法：グローバル・フランチャイズ代表ファンド、先進国株式ともに、(分子となる数値を加重した上で合計) / (分母となる数値を加重した上で合計)。投下資本利益率=EBITA / (有形固定資産+運転資金)、金融セクターを除く。EBITAは税引き前・利払い前・無形資産減価償却前の利益。投下資本利益率の計算方法は、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッドの運用チームが企業の営業の継続のために必要な資本に対する利益率を重視し、ROOCE (Return on Operating Capital Employed) を用いて計算しており、一般的な計算方法とは異なります。そのため、一般的な計算方法で計算された投下資本利益率とは結果が異なる場合があります。※指数は、市況の参考として掲載しており、当ファンドおよびマザーファンドのベンチマークではなく、当ファンドの運用実績を示すものではありません。※指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。

上記は、グローバル・フランチャイズ運用戦略を用い、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッドが運用している代表的なファンドの2025年11月末時点のポートフォリオです。したがって、当ファンドのポートフォリオの状況ではありません。また、当ファンドの将来の運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

※上記は過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、為替・税金・手数料等を考慮していません。

巻末の【本資料に関するご注意事項等】の内容を必ずご覧ください。

Q4 プレミアム企業にはどのような特徴がありますか。 また、過去と比べてそれらに変化はあるのでしょうか。（続き）

生成AIに代替されにくい性質を持つと考えられるプレミアム企業

足下の市場では、急速に進展する生成AIによって、提供するソフトウェアやサービスが代替されることが懸念された企業の株価が、一時的に軟調に推移する局面がありました。グローバル・フランチャイズで投資する企業も同様の懸念によって株価が下落する局面はありましたが、長期的にはプレミアム企業のソフトウェアやサービスは生成AIに代替されにくい性質を持っていると考えています。

■プレミアム企業が優位性を持つと考えられる領域の一例

データ

市場の懸念：生成AIがあらゆるデータを容易に取得できるようになるのでは？

- ・ 公表されていない企業独自のデータ
- ・ 独自の分析や評価に基づく情報で、業界標準となっているデータ（格付け等）
- ・ 信頼性を担保できる情報源として認知されている企業のデータ

ソフトウェア

市場の懸念：既存ソフトウェアはAIエージェントに代替されるのでは？

- ・ 顧客企業の業務に合わせて複雑にカスタマイズされ、必要不可欠となっており、システム変更の負荷も大きいサービス
- ・ 法律や規制の変化にも対応するサービス
- ・ セキュリティ面での信頼性が非常に高いサービス

（出所）モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントの資料を基に三菱UFJアセットマネジメント作成

銘柄の質に関わらず売られるような局面は良い投資機会と捉えることも

前述の、急速な生成AIの普及に伴う懸念が高まった局面では、保有銘柄について分析・再評価を行いました。短期的なテーマや投資家心理次第で、銘柄の質に関わらず売られてしまうような局面は、魅力的なバリュエーションで高くオリティ銘柄を組み入れる良い機会と考えています。

当ファンドでは、ポートフォリオ強化の一環として、7-9月期にシノプシスやMSCIなどの銘柄を新規組入しました。

シノプシスは、生成AIの成長の恩恵を受ける一方で、自動車向けのアナログな半導体の設計サポートなども行っており、生成AIによる恩恵を除いても安定した業績の成長が見込めると考えています。また、MSCIは金融商品のベンチマークとして広く利用されるなど、業界標準の地位を確立しており、プレミアム企業の特性を有していると判断しました。

■7-9月期の新規購入銘柄の一例

シノプシス

- ・ EDA（電子設計自動化ツール）業界大手
- ・ 半導体や電子システムの設計・開発を行う企業にとっては必要不可欠
- ・ 売上は半導体の研究開発予算に連動するため、景気や半導体自体の需要に比較的左右されにくい

MSCI

- ・ 世界的なインデックスプロバイダー
- ・ 機関投資家やETFのベンチマークとして広く利用される指数データを提供
- ・ 業界標準の地位を確立しており、高い参入障壁を築いている

（出所）モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントの資料を基に三菱UFJアセットマネジメント作成

※上記は当ファンドの理解を深めていただくため、2025年7-9月期の新規購入銘柄の一部を紹介したものです。したがって、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記銘柄を組み入れることを保証するものではありません。

※上記は過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、為替・税金・手数料等を考慮していません。

Q5 運用チームの組織体制について教えてください。

プレミアム企業の調査に欠かせない強みを持つ運用チーム

当ファンドが活用するグローバル・フランチャイズ運用戦略は、経験豊富な国際・エクイティ運用チーム（15名）によって運用されています。当運用チームは投資先企業との長期的な関係を有しており、経営陣と容易にミーティングを行うことができるなど、プレミアム企業の調査に欠かせない強みを持っています。

2025年9月には、各運用者のカバレッジに関して、セクターごとに複数名で担当する体制から、関連分野ごとの6グループ制に変更しました。Q4まででお伝えしてきたように、マクロ環境に変化があってもプレミアム企業に投資するという投資哲学自体が変わることはありません。一方で、運用チームの組織を含め、最適な体制となるよう日々強化を行っています。

■国際・エクイティ運用チームの主要リサーチ担当グループ（2025年11月現在）



※上記体制、メンバーは予告なしに変更になる場合があります。

（出所）モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントの資料を基に三菱UFJアセットマネジメント作成

Q6 運用チームから日本の投資家の皆さまに伝えたいメッセージ

グローバル・フランチャイズは一貫した哲学・戦略に基づいて運用を行っており、パフォーマンスの再現性が高いのが特徴です。市場を意識した運用はしておらず、1996年3月以降、30年近くの運用実績の中で魅力的なリターンを追求してきました。

当戦略は、高成長企業などに投資をして短期で高いリターンを狙うのではなく、景気に左右されることなく安定した業績成長が期待されるプレミアム企業に投資を行います。したがって、市場が特定のテーマなどを背景に大きく上昇する局面では、市場平均よりもリターンが低くなる場合があります。

当ファンドを保有して下さっている投資家のみなさまの中には、足下のパフォーマンスについて不安を感じている方もいらっしゃるかもしれません。運用チームは、クオリティ株式、またグローバル・フランチャイズのポートフォリオが、**2000年初頭以降ではかつてないほど割安な状態にあるとみています**。一方で、過去にクオリティ株式の割安度合いが高まった際には、市場がクオリティの良し悪しを評価する冷静さを取り戻すことでいずれも修正されてきたことから、現在のような状況がいつまでも続くとは考えていません。AIなど特定のテーマに市場が熱狂する中では、あらためて「大きな下落を抑えながら安定的に運用し、資産を長期で着実に増やす」という当戦略の考え方やその一貫性をご理解いただけますと幸いです。そして、中長期で運用成果を期待される投資家のみなさまには、当ファンドをご活用いただき、安定的な資産形成をめざしていただきたいと思います。

（2025年11月末時点）

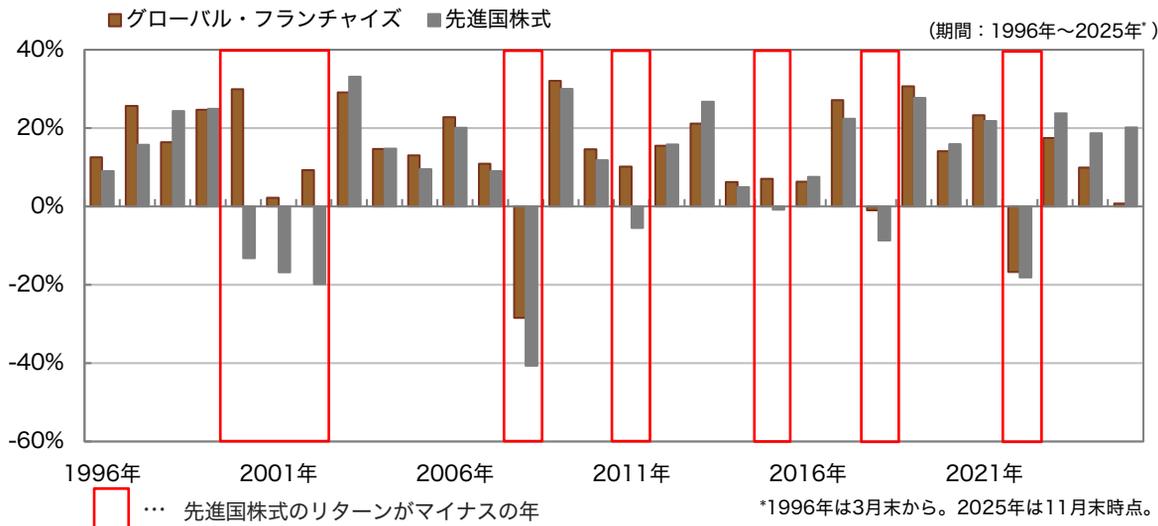
※上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。
※市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

ご参考：長期で良好なパフォーマンスをあげてきたグローバル・フランチャイズ

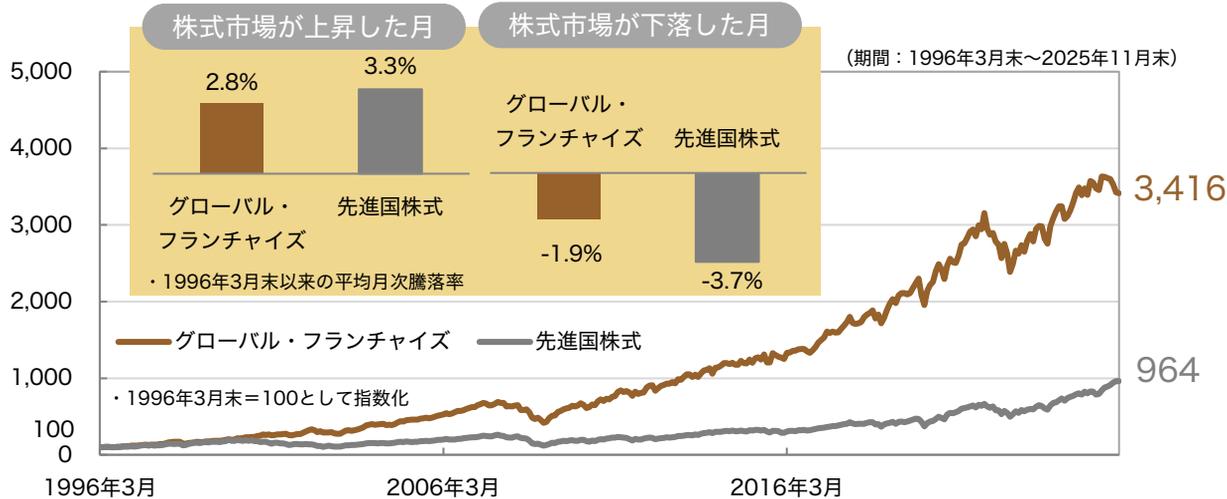
グローバル・フランチャイズの年次リターンを先進国株式と比較すると、先進国株式がマイナスとなった年にはグローバル・フランチャイズが先進国株式を上回りました。（上図）

グローバル・フランチャイズの平均月次騰落率をみると、株式市場が上昇した月は先進国株式ほど上昇していませんが、下落した月には下値抵抗力を発揮しました。下落を相対的に抑制することで、運用開始来で良好なパフォーマンスをあげてきました。（下図）

年次リターン



運用開始来のパフォーマンス推移と株式市場が上昇・下落した月におけるパフォーマンス



(出所) モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントのデータを基に三菱UFJアセットマネジメント作成

・上記は、モルガン・スタンレー・グローバル・フランチャイズ・コンポジット* (運用報酬控除前、配当および収益再投資、本資料においてグローバル・フランチャイズ) のパフォーマンスを表しています。グローバル・フランチャイズは、「モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン マザーファンド (以下、マザーファンド)」の運用指図権限の委託先であるモルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッドによって運用され、当ファンドが投資するマザーファンドと同様の運用プロセスを用いておりますが、当ファンドの運用実績とは異なります。また、当ファンドの将来の運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。グローバル・フランチャイズの運用開始日は1996年3月31日。*コンポジットとは、運用のパフォーマンス測定のため、類似の投資目的、投資戦略に基づき運用される複数のファンドをまとめたものをいいます。

※グローバル・フランチャイズは、米ドルベースのパフォーマンスを表しています。※先進国株式は、米ドルベースの指数 (配当込み) を使用しています。※指数は、市況推移の参考として掲載しており、グローバル・フランチャイズおよび当ファンドのベンチマークではなく、当ファンドの運用実績を示すものではありません。※指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。

※上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。※表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。

ファンドの目的・特色

■ファンドの目的

信託財産の成長を目指して運用を行います。

■ファンドの特色

【特色1】世界各国の株式のうち、プレミアム企業の株式に投資を行い、中長期的な値上がり益の獲得を目指します。

- ・ 当ファンドにおいて「プレミアム企業」とは、高いブランド力、有力な特許、強固な販売網など、競争優位の無形資産を裏付けに、持続的にフリー・キャッシュフローを増大させることが期待される企業を指します。

【特色2】銘柄の選定に際しては、長期保有を視野に徹底的なボトムアップ・アプローチを行い、利益成長の持続可能性を多面的に分析します。

- ・ 収益性、財務内容の分析に加え、保有する無形資産や経営陣の質などから利益成長の持続可能性を多面的に分析します。
- ・ 原則として、厳選した20~40銘柄に集中投資を行います。
- ・ 株式の組入比率は、原則として高位を保ちます。

【特色3】モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッドに運用指図の権限を委託します。

- ・ モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッド（所在地：英国ロンドン）は、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントの欧州拠点です。

【特色4】為替ヘッジの有無により、「為替ヘッジあり」、「（為替ヘッジあり）予想分配金提示型」、および「為替ヘッジなし」、「（為替ヘッジなし）予想分配金提示型」があります。

- ・ 「為替ヘッジあり」、「（為替ヘッジあり）予想分配金提示型」は、外貨建資産について、原則として対円で為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減をはかります。為替ヘッジに関しては、委託会社が行います。為替ヘッジを行う場合で、円金利がヘッジ対象となる外貨建資産の通貨の金利より低い場合、円とヘッジ対象となる外貨建資産の通貨との金利差相当分のヘッジコストがかかることにご留意ください。ただし、為替市場の状況によっては、金利差相当分以上のヘッジコストとなる場合があります。

※一部の通貨については、その通貨との相関が高いと判断される代替通貨により対円で為替ヘッジを行うことがあります。

- ・ 「為替ヘッジなし」、「（為替ヘッジなし）予想分配金提示型」は、外貨建資産について、原則として為替ヘッジを行いません。

【特色5】「為替ヘッジあり」、「為替ヘッジなし」は、年1回（毎年2月23日（休業日の場合は翌営業日））決算を行い、収益の分配を行います。「（為替ヘッジあり）予想分配金提示型」、「（為替ヘッジなし）予想分配金提示型」は、毎月の決算日（毎月23日（休業日の場合は翌営業日））の前営業日の基準価額に応じた分配をめざします。

■為替ヘッジあり、為替ヘッジなし

- ・ 分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。
- ・ 委託会社が基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して、分配金額を決定します。
- ・ 原則として、配当等収益の水準を考慮して分配します。
（ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わない場合もあります。）

■（為替ヘッジあり）予想分配金提示型、（為替ヘッジなし）予想分配金提示型

- ・ 分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わない場合があります。
- ・ 原則として、決算日の前営業日の基準価額に応じ、右記の金額の分配をめざします。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わない場合があります。また、決算日にかけて基準価額が急激に変動し、右記に記載された分配金額が分配対象額を超える場合等には、当該分配金額としないことや分配を行わない場合があります。

※基準価額が右記の一定の水準に一度でも到達すればその水準に応じた分配を続ける、というものではありません。※分配により基準価額は下落します。そのため、基準価額に影響を与え、次期以降の分配金額は変動する場合があります。また、あらかじめ一定の分配金額を保証するものではありません。※基準価額の値上がりにより、分配金の支払い準備のために用意していた資金を超える分配金テーブルに該当することによって資金が不足する場合等は、テーブル通りの分配ができない場合があります。※右記表に記載された基準価額および分配金額は、予想に基づくものであり、将来の運用の成果を保証または示唆するものではありません。

| 決算日の前営業日の 基準価額 | 分配金額 (1万口当たり、税引前) |
|------------------------|----------------------|
| 10,500円未満 | 基準価額の水準等を 勘案して決定 |
| 10,500円以上 11,000円未満 | 50円 |
| 11,000円以上 12,000円未満 | 100円 |
| 12,000円以上 13,000円未満 | 150円 |
| 13,000円以上 14,000円未満 | 200円 |
| 14,000円以上 15,000円未満 | 250円 |
| 15,000円以上 | 300円 |

※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではなく、委託会社の判断により、分配を行わない場合もあります。
市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

投資リスク

基準価額の変動要因：基準価額は、株式市場の相場変動による組入株式の価格変動や為替相場の変動等により上下します。また、組入有価証券等の発行者等の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の影響を受けます。これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。主な変動要因は、株価変動リスク、為替変動リスクです。

上記は主なリスクであり、これらに限定されるものではありません。 くわしくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

ファンドの費用

- 購入時
[購入時手数料] 購入価額に対して、**上限3.30% (税抜 3.00%)** 販売会社が定めます。くわしくは、販売会社にご確認ください。
- 換金時
[信託財産留保額] ありません。
- 保有期間中
[運用管理費用 (信託報酬)] 各ファンドの日々の純資産総額に対して、**年率1.980% (税抜 年率1.800%)** をかけた額
[その他の費用・手数料] 以下の費用・手数料についても各ファンドが負担します。
 - ・ 監査法人に支払われる各ファンドの監査費用
 - ・ 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
 - ・ 有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
 - ・ その他信託事務の処理にかかる諸費用等
 ※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。
- ※ 運用管理費用 (信託報酬) および監査費用は、日々計上され、各ファンドの基準価額に反映されます。為替ヘッジあり/為替ヘッジなしについては、毎計算期間の最初の6ヵ月終了時、毎決算時または償還時に各ファンドから支払われます。(為替ヘッジあり) 予想分配金提示型/ (為替ヘッジなし) 予想分配金提示型については、毎決算時または償還時に各ファンドから支払われます。
- ※ ファンドの費用 (手数料等) については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、各ファンドが負担する費用 (手数料等) の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

本資料に関するご注意事項等

- 本資料は三菱UFJアセットマネジメントが作成した情報提供資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

【本資料で使用している指数について】

■先進国株式：MSCI ワールド インデックス ■S&P500指数 ■S&P500クオリティ指数

本資料中の指数等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、発行者および許諾者が指数等の正確性、完全性を保証するものではありません。

各指数等に関する免責事項等については、委託会社のホームページ (<https://www.am.mufg.jp/other/disclaimer.html>) をあわせてご確認ください。

【GICS (世界産業分類基準) について】

Global Industry Classification Standard (GICS)は、MSCI Inc.とS&P(Standard & Poor's) が開発した業種分類です。GICSに関する知的財産所有権はMSCI Inc.およびS&Pに帰属します。

販売会社情報一覧表 投資信託説明書（交付目論見書）のご請求は下記の販売会社まで

2025年11月28日現在

ファンド名称: モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン

| 商号 | | 登録番号等 | 日本証券業協会 | 一般社団法人 日本 投資顧問業 協会 | 一般社団法人 金融先物 取引業協会 | 一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会 |
|-------------------------------------|----------|------------------|---------|-----------------------------|-------------------------|--------------------------------|
| アイザワ証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第3283号 | ○ | ○ | | ○ |
| 株式会社あいち銀行 | 登録金融機関 | 東海財務局長(登金)第12号 | ○ | | ○ | |
| 株式会社あおぞら銀行 | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第8号 | ○ | | ○ | |
| あかつき証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第67号 | ○ | ○ | ○ | |
| 株式会社秋田銀行(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 東北財務局長(登金)第2号 | ○ | | | |
| 株式会社イオン銀行(委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社) | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第633号 | ○ | | | |
| いちよし証券株式会社(IFA専用) | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第24号 | ○ | ○ | | |
| 岩井コスモ証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 近畿財務局長(金商)第15号 | ○ | ○ | ○ | |
| 株式会社SBI証券 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第44号 | ○ | | ○ | ○ |
| 株式会社SBI新生銀行(委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券) | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第10号 | ○ | | ○ | |
| 株式会社SBI新生銀行(委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社) | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第10号 | ○ | | ○ | |
| 株式会社SBIネオトレード証券(為替ヘッジなしのみ取扱) | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第8号 | ○ | | ○ | |
| 岡崎信用金庫(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 東海財務局長(登金)第30号 | ○ | | | |
| 岡三証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第53号 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 株式会社鹿児島銀行(委託金融商品取引業者 九州FG証券株式会社) | 登録金融機関 | 九州財務局長(登金)第2号 | ○ | | | |
| 株式会社北九州銀行 | 登録金融機関 | 福岡財務支局長(登金)第117号 | ○ | | ○ | |
| 九州FG証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 九州財務局長(金商)第18号 | ○ | | | |
| 株式会社熊本銀行 | 登録金融機関 | 九州財務局長(登金)第6号 | ○ | | | |
| ぐんぎん証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第2938号 | ○ | | | |
| 株式会社京葉銀行(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第56号 | ○ | | | |
| 株式会社静岡銀行 | 登録金融機関 | 東海財務局長(登金)第5号 | ○ | | ○ | |
| 株式会社七十七銀行(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 東北財務局長(登金)第5号 | ○ | | ○ | |
| 七十七証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 東北財務局長(金商)第37号 | ○ | | | |
| 株式会社十八親和銀行 | 登録金融機関 | 福岡財務支局長(登金)第3号 | ○ | | | |
| 株式会社十六銀行 | 登録金融機関 | 東海財務局長(登金)第7号 | ○ | | ○ | |
| 新大垣証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 東海財務局長(金商)第11号 | ○ | | | |
| 株式会社スマートプラス | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第3031号 | ○ | ○ | | ○ |
| ソニー銀行株式会社(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第578号 | ○ | | ○ | ○ |
| 第四北越証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第128号 | ○ | | | |
| 大和証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第108号 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| CHEER証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第3299号 | ○ | ○ | | |
| 株式会社千葉銀行 | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第39号 | ○ | | ○ | |
| ちばぎん証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第114号 | ○ | | | |
| 中銀証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 中国財務局長(金商)第6号 | ○ | | | |
| 東海東京証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 東海財務局長(金商)第140号 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 東洋証券株式会社(IFA専用) | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第121号 | ○ | | | ○ |
| とちぎんTT証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第32号 | ○ | | | |
| 株式会社名古屋銀行(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 東海財務局長(登金)第19号 | ○ | | | |
| 南都まほろば証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 近畿財務局長(金商)第25号 | ○ | | | |
| 西日本シティTT証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 福岡財務支局長(金商)第75号 | ○ | | | |
| 野村證券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第142号 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 株式会社八十二銀行(委託金融商品取引業者 八十二証券株式会社) | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第49号 | ○ | | ○ | |
| 八十二証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第21号 | ○ | ○ | | |
| PWM日本証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第50号 | ○ | | | ○ |
| 株式会社肥後銀行(委託金融商品取引業者 九州FG証券株式会社) | 登録金融機関 | 九州財務局長(登金)第3号 | ○ | | | |
| 株式会社百五銀行 | 登録金融機関 | 東海財務局長(登金)第10号 | ○ | | ○ | |
| 百五証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 東海財務局長(金商)第134号 | ○ | | | |
| 株式会社百十四銀行 | 登録金融機関 | 四国財務局長(登金)第5号 | ○ | | ○ | |
| ひろぎん証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 中国財務局長(金商)第20号 | ○ | | | |
| 広島信用金庫 | 登録金融機関 | 中国財務局長(登金)第44号 | ○ | | | |
| 株式会社福岡銀行 | 登録金融機関 | 福岡財務支局長(登金)第7号 | ○ | | ○ | |
| PayPay銀行株式会社 | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第624号 | ○ | | ○ | |
| PayPay証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第2883号 | ○ | | | |
| ほくほくTT証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 北陸財務局長(金商)第24号 | ○ | | | |
| 株式会社北洋銀行 | 登録金融機関 | 北海道財務局長(登金)第3号 | ○ | | ○ | |
| 株式会社北洋銀行(委託金融商品取引業者 北洋証券株式会社) | 登録金融機関 | 北海道財務局長(登金)第3号 | ○ | | ○ | |
| 北洋証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 北海道財務局長(金商)第1号 | ○ | | | |
| 松井証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第164号 | ○ | | ○ | |
| マネックス証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第165号 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 丸八証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 東海財務局長(金商)第20号 | ○ | | | |

・商号欄に*の表示がある場合は取次販売会社です。 ・商号欄に(※)の表示がある場合は新規申込のお取扱いを中止しております。

販売会社情報一覧表 投資信託説明書（交付目論見書）のご請求は下記の販売会社まで

2025年11月28日現在

ファンド名称: モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン

| 商号 | 登録番号等 | 日本証券業協会 | 一般社団法人 日本 投資顧問業 協会 | 一般社団法人 金融先物 取引業協会 | 一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会 |
|---|----------|------------------|-----------------------------|-------------------------|--------------------------------|
| 株式会社三菱UFJ銀行 | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第5号 | ○ | ○ | ○ |
| 株式会社三菱UFJ銀行(委託金融商品取引業者 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社) | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第5号 | ○ | ○ | ○ |
| 三菱UFJ eスマート証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第61号 | ○ | ○ | ○ |
| 三菱UFJ信託銀行株式会社 | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第33号 | ○ | ○ | ○ |
| 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第2336号 | ○ | ○ | ○ |
| moomoo証券株式会社(為替ヘッジなしのみ取扱) | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第3335号 | ○ | ○ | |
| 株式会社武蔵野銀行 | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第38号 | ○ | | |
| 株式会社もみじ銀行 | 登録金融機関 | 中国財務局長(登金)第12号 | ○ | ○ | |
| 株式会社山口銀行 | 登録金融機関 | 中国財務局長(登金)第6号 | ○ | ○ | |
| 株式会社横浜銀行 | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第36号 | ○ | ○ | |
| 楽天証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第195号 | ○ | ○ | ○ |
| 株式会社琉球銀行 | 登録金融機関 | 沖縄総合事務局長(登金)第2号 | ○ | | |
| 朝日信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第143号 | ○ | | |
| 足利小山信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第217号 | ○ | | |
| 飯田信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第252号 | ○ | | |
| 遠州信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 東海財務局長(登金)第28号 | ○ | | |
| 金沢信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 北陸財務局長(登金)第15号 | ○ | | |
| 京都信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 近畿財務局長(登金)第52号 | ○ | | |
| 呉信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 中国財務局長(登金)第25号 | ○ | | |
| さわやか信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第173号 | ○ | | |
| 城北信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第147号 | ○ | | |
| 大地みらい信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 北海道財務局長(登金)第26号 | ○ | | |
| 玉島信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 中国財務局長(登金)第30号 | ○ | | |
| 豊田信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 東海財務局長(登金)第55号 | ○ | | |
| 長野信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第256号 | ○ | | |
| 西尾信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 東海財務局長(登金)第58号 | ○ | | |
| 西中国信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 中国財務局長(登金)第29号 | ○ | | |
| 八幡信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 東海財務局長(登金)第60号 | ○ | | |
| 備前日生信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 中国財務局長(登金)第40号 | ○ | | |
| 兵庫信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 近畿財務局長(登金)第81号 | ○ | | |
| 福井信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 北陸財務局長(登金)第32号 | ○ | | |
| 福岡ひびき信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 福岡財務支局長(登金)第24号 | ○ | | |
| 福島信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 東北財務局長(登金)第50号 | ○ | | |
| 宮城第一信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 東北財務局長(登金)第52号 | ○ | | |
| いわき信用組合*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 東北財務局長(登金)第59号 | ○ | | |
| 群馬県信用組合*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第295号 | ○ | | |
| 青和信用組合*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第276号 | ○ | | |
| 長崎三菱信用組合*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 福岡財務支局長(登金)第112号 | ○ | | |
| 長野県信用組合*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第299号 | ○ | | |
| 新潟県信用組合*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第297号 | ○ | | |
| 飛騨信用組合*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 東海財務局長(登金)第79号 | ○ | | |
| 沖縄県労働金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 沖縄総合事務局長(登金)第8号 | ○ | | |
| 九州労働金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 福岡財務支局長(登金)第39号 | ○ | | |
| 近畿労働金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 近畿財務局長(登金)第90号 | ○ | | |
| 四国労働金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 四国財務局長(登金)第26号 | ○ | | |
| 静岡県労働金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 東海財務局長(登金)第72号 | ○ | | |
| 中央労働金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第259号 | ○ | | |
| 中国労働金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 中国財務局長(登金)第53号 | ○ | | |
| 東海労働金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 東海財務局長(登金)第70号 | ○ | | |
| 東北労働金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 東北財務局長(登金)第68号 | ○ | | |
| 長野県労働金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第268号 | ○ | | |
| 新潟県労働金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 関東財務局長(登金)第267号 | ○ | | |
| 北陸労働金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 北陸財務局長(登金)第36号 | ○ | | |
| 北海道労働金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 | 北海道財務局長(登金)第38号 | ○ | | |

・商号欄に*の表示がある場合は取次販売会社です。・商号欄に(※)の表示がある場合は新規申込のお取扱いを中止しております。

販売会社情報一覧表 投資信託説明書（交付目論見書）のご請求は下記の販売会社まで

2025年11月28日現在

ファンド名称: モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン 予想分配金提示型

| 商号 | 登録番号等 | 日本証券業協会 | 一般社団法人 日本 投資顧問業 協会 | 一般社団法人 金融先物 取引業協会 | 一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会 |
|---|---------------------------|---------|-----------------------------|-------------------------|--------------------------------|
| アイザワ証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3283号 | ○ | ○ | | ○ |
| 株式会社イオン銀行(委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社) | 登録金融機関 関東財務局長(登金)第633号 | ○ | | | |
| いちよし証券株式会社(IFA専用) | 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第24号 | ○ | ○ | | |
| 岩井コスモ証券株式会社 | 金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第15号 | ○ | ○ | ○ | |
| 株式会社SBI新生銀行(委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社) | 登録金融機関 関東財務局長(登金)第10号 | ○ | | ○ | |
| ぐんぎん証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2938号 | ○ | | | |
| 新大垣証券株式会社 | 金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第11号 | ○ | | | |
| 大和証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 南都まほろば証券株式会社 | 金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第25号 | ○ | | | |
| 野村證券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第142号 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 株式会社八十二銀行(委託金融商品取引業者 八十二証券株式会社) | 登録金融機関 関東財務局長(登金)第49号 | ○ | | ○ | |
| 八十二証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第21号 | ○ | ○ | | |
| ひろぎん証券株式会社 | 金融商品取引業者 中国財務局長(金商)第20号 | ○ | | | |
| ほくほくTT証券株式会社(為替ヘッジなしのみ取扱) | 金融商品取引業者 北陸財務局長(金商)第24号 | ○ | | | |
| マネックス証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 株式会社三菱UFJ銀行 | 登録金融機関 関東財務局長(登金)第5号 | ○ | | ○ | ○ |
| 株式会社三菱UFJ銀行(委託金融商品取引業者 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社) | 登録金融機関 関東財務局長(登金)第5号 | ○ | | ○ | ○ |
| 三菱UFJ信託銀行株式会社 | 登録金融機関 関東財務局長(登金)第33号 | ○ | ○ | ○ | |
| 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2336号 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| moomoo証券株式会社(為替ヘッジなしのみ取扱) | 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3335号 | ○ | ○ | | |
| 株式会社武蔵野銀行 | 登録金融機関 関東財務局長(登金)第38号 | ○ | | | |
| 株式会社琉球銀行 | 登録金融機関 沖縄総合事務局長(登金)第2号 | ○ | | | |
| 飯田信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 関東財務局長(登金)第252号 | | | | |
| 北伊勢上野信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 東海財務局長(登金)第34号 | | | | |
| 桐生信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 関東財務局長(登金)第234号 | | | | |
| 呉信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 中国財務局長(登金)第25号 | | | | |
| 白河信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 東北財務局長(登金)第36号 | | | | |
| 豊田信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 東海財務局長(登金)第55号 | ○ | | | |
| 兵庫信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 近畿財務局長(登金)第81号 | ○ | | | |
| 福島信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 東北財務局長(登金)第50号 | | | | |
| 水島信用金庫*(為替ヘッジなしのみ取扱) | 登録金融機関 中国財務局長(登金)第48号 | | | | |

・商号欄に*の表示がある場合は取次販売会社です。・商号欄に(※)の表示がある場合は新規申込のお取扱いを中止しております。

MEMO

Morgan Stanley Global Premium Stock Open

Premium

